



平成29年7月

第27号



「丹後ちりめん回廊」日本遺産認定
 平成二十九年四月二十八日、丹後二市二町（京丹後市、宮津市、伊根町、与謝野町）を舞台とした『三百年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊』が、「日本遺産」に認定されました。

「日本遺産」は文化庁が地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを認定するもので、地域の魅力を内外に発信し活性化を図ることを目的に平成二十七年に制度化されました。

この度の「丹後ちりめん回廊」は二市二町の構成文化財四十八件からなり、その一つに当社も「狛猫」を前面に丹後ちりめんゆかりの名所として加えていただきました。ちりめんを守る大切な存在だった猫は、養蚕の神に狛猫として長く仕えて来ましたが、町おこし有志による「ねこプロジェクト」の活躍や「こまねこまつり」の成功など、益々その存在に注目が集まっています。

丹後の人と猫のつながり  を大切にまつり

第2回
こまねこまつり
 mineyama komaneko festival
 開催決定!!
 2017年
 9月17日(日)
 10時から16時
 峰山まちなか
 ・金刀比羅神社

300年を紡ぐ絹が織り成す
 丹後ちりめん回廊
 日本遺産 認定!!

ウェブサイト▶ <http://www.komanekofes.com> こまねこまつり 検索
 Facebook▶ <https://www.facebook.com/komanekomatsumi>

七月九日(日)午後八時
 金刀比羅神社夏季大祭
峰山花火大会
 主催 金刀比羅神社夏季大祭
 花火実行委員会
 雨天の場合は、七月二十九日の水無月祭で実施します

丹後 **親子で楽しむ**
こども論語塾
 論語に楽しく親しんでください。
 親子でのご参加お待ちします。
 開催日 8月6日・9月24日・12月3日(日)
 9時30分～
 講師 青木順子先生(こやま論語を楽しむ会代表)
 参加料 子ども三〇〇円 大人五〇〇円

「こんぴらさん」の
厄落としぐわっきー
 500円




www.konte1.com
こんぴら
手づくり市
第三日曜日
 今年は
 7月16日と
 8月20日も
 通常開催
 10:00
 ~15:00

厳肅で清楚な
 結婚式 御祈禱
金刀比羅神社
 Konpirasan Shrine
 〒620-0011 宮司 脇阪卓甫
 京丹後市峰山町泉二一六五二
 電話 〇七七一八二一〇二三五
 FAX 〇七七一八二一五九九三

mail info@konpirasan.com
 http://www.konpirasan.com

十月八日(日)
例祭 神輿渡御祭
神輿興丁募集



七月二十九日
水無月祭
 「茅の輪くぐり」二十八日より
 「人形」受付 祓所参拝
 午後六時より九時まで
 「夜の市」開催
 水無月会奉仕




三百年前に紡がれた 丹後ちりめん

「日本遺産」は全国で五十四件が認定されており、府内ではこれまでの『日本茶八〇〇年の歴史散歩』（京都・山城）、『鎮守府 横須賀 呉』（京都・山城）、『舞鶴市他』佐世保・舞鶴／日本近代化の躍動を体感できるまち』(舞鶴市他)に次ぐ三件目の認定となりました。構成文化財四十八件の内訳は伊根町一件、宮津市一五件、与謝野町二三件、京丹後市一件で、峰山町では禅定寺、常立寺と当社の三件が加わりました。件数を見ると与謝地域に集中しているようにも見えますが、峰山なくして丹後ちりめんはありません。



森田治郎兵衛翁墓所 常立寺

丹後ちりめん創始と藩政

享保五年(一七二〇) 絹屋佐平治は、禅定寺に七日間の断食祈願を行い、観音様のお告げを聞き、修業した京都西陣で門外不出の技法を習得するに至りました。禅定寺に奉納された初織の丹後ちりめんは寺宝として現存するそうです。当時の峯山藩主は四代京極高之公でしたが、五代高長公は享保八年、京都に七軒の間屋を選定するなど奨励策をとり、享保一五年には「お召縮緬や」の暖簾を下賜し、佐平治は森田治郎兵衛と改名を許されました。治郎兵衛は没後京極



常立寺入口に立つ銘碑

家菩提寺でもある常立寺に吊われ、今日も顕彰され続けています。

一方宮津藩領の加悦谷でも享保七年に後野の木綿屋六右衛門、三河内の山本屋佐兵衛、加悦の手米屋小右衛門の手で技法が伝えられますが、圧政を敷いていた時の藩主は農業が疎かになるとして機業を弾圧しました。藩主の改易や転封が目まぐるしく続く宮津藩では圧政が続き、機業が認められるのは本庄(松平)家が変わってから。しかし藩政に管理され重税が課せられるなどし、文政五年(一八二二)の文政一揆へとつながっていくこととなります。



平地地藏尊 大宮町下常吉

大い揆から十年後の天保四年(一八三三)、大宮町下常吉の平地地藏(常林寺)が罫留の石工松助の手で完成しています。この地藏尊建立の真意は文政一

揆で亡くなった義民の供養ということのようです。

丹後ちりめん回廊の象徴

峯山藩では江戸時代を通じて京極家が藩主を務めて善政を敷き、一度の一揆も起きませんでした。丹後ちりめん創業から九〇年を経て七代京極高備公の文化八年(一八一)に金毘羅権現を勧請し、領民へも信仰を促しました。文政一三年(一八三〇)には、藩主の信仰によって創建された当社の境内に藩政を支えた縮緬業者らの手で養蚕の神・木島神社が勧請されました。さらにその二年後の天保三年に石工松助作の「石像猫」が奉納されます。平地地藏完成の一年前のことです。

丹後ちりめん創業時の峯山藩と宮津藩の政策は大きく異なりましたが、以降幾多の苦難の歴史を刻んで丹後の一大産業となり、現在は遺産と呼ばれるに至りました。丹後ちりめん繁栄を祈り、希望に満ちて作られた狛猫は、その盛衰を見守り続けてきました。今や『三百年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊』の象徴的な存在となっています。

志のみで盛上げる

日本遺産認定の趣旨は「地域に点在する遺産を(面)として活用し、ストーリーを語る上で欠かせない魅力ある有形・無形の文化財群を地域が主体となって、総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信して地域活性化を図る。」とのこと。

これはまさに丹後ちりめんにゆかりの狛猫を取り上げて町おこしに取り組む「ねこプロジェクト」や「こまねこまつり」の開催趣旨にそのまま当てはまります。

平成二十三年の二百年祭を契機に活動が始まった「ねこプロジェクト」は陶器猫に絵付けした子どもたちの作品二百対の奉納展示を行ったことをきっかけに、猫のいる町を目指して町内商店に飾っていただき、今も町を歩けばあちらこちらで陶器猫を目にします。今では大小の陶器猫の絵付け体験を常に受け付け、猫の顔を思いのままに描いて木島神社に奉納する猫の顔絵馬の企画も行いました。



ねこプロジェクト 陶器猫の準備



こまねこまつり スタッフ会議

同時期に始まった「こんぴら手づくり市」は神社にもっと親しんでいただくよう、神社の雰囲気をもっと楽しんでいただく。と始まり、九月に八十回を数えます。昨年初めて開催された「こまねこまつり」は、当社から町中に舞台を広げた企画で大成功を収め、

九月十七日(日)に第二回の開催が決定しています。これらに関わる地元有志らが仕事の合間に時間と労力を削って、まさに手弁当で奉仕してきたことの成果です。志だけを持ち寄り、夜遅くまでの会合を重ねて、少しでも地域活性化につながれば。他地区の構成文化財とのネットワークを活用したい。と様々な新アイデアも出てきますが、労力と資金にはかなりの制約があり、特に長く続けていくために必要なスタッフ人員の不足は深刻です。ここに日本遺産認定が追い風となり、物心両面の支援や協力が広がっていくことが期待されています。

総代就退任のお知らせ

神社総代 西垣徳彦殿は平成二十九年六月三十日付を以てご退任になりました。永年のご奉仕に深謝申し上げます。田 中 良 剛 殿 (美和産業株式会社代表取締役) 金刀比羅神社総代を委嘱します。平成二十九年七月一日付

金刀比羅神社 役員名簿

敬称略

責任役員 井上 敏 (代表総代)

錦織 隆

稲葉悦男 (総代兼任)

中山 力 (総代兼任)

松本研二 (総代兼任)

山本喜与志 (総代兼任)

藤原邦夫 井上五朗

森 一彦 田中良剛

吉村孝道 寺田厚生

安田清志 山本英雄 岸田利道

金刀比羅会 役員名簿

敬称略

会長 稲葉悦男

副会長 松本研二 田中良剛

監事 藤原邦夫 井上五朗 横井邦夫

元町区 諏訪部英雄 山下重雄

一 区 山本光男 岡崎一芳

二 区 吉岡 章 池田芳昭

三 区 田中孝一 安田清志

四 区 寺田昭夫 吉見英次

五 区 荻野丈太 西木邦夫 寺田泰政

六 区 松田寿之 横井邦夫

七 区 指田守生 山本英雄

八 区 森 一彦 由利敏雄

九 区 中西 実 寺田義明 淡路弘之

十 区 三木邦彦 中川芳隆

十一 区 中邑正樹 赤岩康利

十二 区 増田和久 木下讓太郎 奥田晋也

十三 区 戸石三吉 松本鐘三郎

十四 区 小林邦夫 小野甚一 中村健之

十五 区 吉田件昨 岸田利道 中井 望

十六 区 牧野秀太郎 廣野勇夫

十七 区 中山宗五郎 岸本博一 由良隆彦

十八 区 西村郁生 真岡修治